

1. 伝承あそび

2. 普段の遊びの中で、カルタやこま、けん玉などに触れ、遊び方やルールを友だちや年上児から教えてもらい興味を持つ子が増えたことや、公共の施設で伝承遊びの体験をしたことでより興味関心が深まったため。

3. 令和7年10月～令和8年3月

4. 活動の内容

◆準備したもの

- ・こま・けん玉・竹馬・カルタ



◆活動中の姿とかかわり

・こま・けん玉

友だちや年上児、保育者にやり方を教わりながら、諦めずにくり返し練習する姿が多く見られた。

10月頃からはフェスタ（運動会）で披露することがこどもたちのねらいになり、どんな技があるのかを保育者と一緒に調べ、目標を持って様々な技に挑戦し習得することができた。フェスタ後も気持ちが途切れることなく練習をおこなうことができている。



・竹馬

小平ふるさと村で体験したことをきっかけに、特に年中、年長児で興味を持つ子が多かった。その後も何回かふるさと村を訪れたが、そのたびに長時間集中して練習していた。頻繁に通うには距離があり難しかったため園に用意をすると、更にこどもたちの気持ちが高まり、今までに取り組んでいなかった子もできるようになった子に刺激を受け取り組み乗ることができるようになり、自信に繋がった。



・カルタ

異年齢児で声を掛け合い、年上児が場をまとめて皆で楽しむことができている。文字への興味も膨らみ、年上児に文字の読み方を教わりながら遊ぶ姿も見られる。



5. 振り返り：戸外・室内ともにやりたい遊びがたくさんある中で、どのように伝承遊びに取り組む時間を確保できるかということを担当間話し合い、活動の時間を組むようにした。

異年齢児で生活しているため、できるようになった子が年下児にやり方を教えてくれることがとても多く、こどもたちの自立心を育むことができた。

クラスフォトにて活動の様子を保護者にも共有し、家庭でも振り返ってもらうとともに、フェスタ（運動会）でも披露し保護者に日頃の取り組みを見てもらいご理解をいただくことができた。

## すくわくプログラム報告書

### 1.自然あそび

2.園の周りに大きな公園があり自然も豊かなので、こどもたちも様々な自然物に興味を持っている。自然の持つ形や色、模様に着目して興味関心をさらに深められるようにするため。

3.令和7年4月～令和8年3月

### 4.活動の内容

#### ◆準備したもの

- ・厚紙・画用紙・ラミネートフィルム

#### ◆活動中の姿とかかわり

- ・『わたしのワンピース』の絵本を題材にした遊びを楽しんだ。

ワンピースの部分が透明になっており、お花や葉っぱを合わせて、ワンピースの柄を作った。

今まで目を向けなかった場所や草花にも目を向けることができ、新たな発見をこども同士で伝え合っていた。

- ・絵本の内容を知っていた子は、花の名前やアイデアを友だちに伝え、色々な柄を見つけて絵本の世界に入り込み楽しんでいた。

ワンピースの柄が花でいっぱいになると、“きれい”と感じる感覚を刺激され、感動を共感し合う様子も見られた。

- ・絵本の世界と自然がつながり、面白さを感じることができた。



5.振り返り：植物を使いごっこ遊びや造形遊びを楽しむことは今までにもたくさんあったが、草花を目で楽しむことは少なく、また絵本の内容と同じことができることの楽しさも相まって、夢中になって遊ぶ様子が見られた。その中で花の咲き方や草花の形などにも気付くことができていた。

こどもたちが気付いていない場所は、保育者も一緒に遊びながら伝えることで、より広い視点で公園を探索できるようにした。

クラスフォトにて活動の様子を保護者にも共有し、こどもたちの楽しさを知ってもらうことができた。

1. わらじ運動あそび

2. 園庭も園舎も狭い中で、こどもたちが体を動かしたい気持ちをどう満たしていくかは常に課題に思っていた。手芸の本を見ていた児がわらじに着目し「作ってみたい」と言った。自分たちで作り履いてみて、身体がどう変化するかを研究したいと思ったため。

3. 令和7年4月～令和8年3月

4. 活動の内容

◆準備したもの

草履・ワイヤーネット・プラ段ボール

◆活動中の姿とかかわり

・古布で編んだわらじを履いて室内で遊んでいたが、こどもたちから外でも履いてみたいと声上がり戸外で履いてみたところ、つま先を上手く使って歩くことができない子が多かった。

↓

転倒する子が多いことや、ハイハイをおこなう活動に取り組んでいることも踏まえ、ぞうり保育を実施することで、こどもたちが足を上手に使うことができるようになるのではないかと考えた。古布で編んだわらじでは、長距離を歩くと壊れてしまったり、靴底がなく足に直接刺激が伝わったりしてしまうため、ぞうりを履くことにした。

↓

始めは短い距離を歩くことがやっとで、公園で遊んでも鼻緒を指で掴むことができずにぞうりが脱げてしまう子がほとんどだったが、少しずつ慣れていき、今ではおにごっこや木登りも難なく行うことができている。

・靴とぞうりのどちらが好きかを聞くと、ぞうりの方が気持ちいいからぞうりが好きだと答える子が多く、足の開放感を味わえることにも喜びを感じている様子が見られる。



5. 振り返り：ぞうり保育を始めてから、転倒によるけがが少なくなり、こどもたちの足の使い方が上手になったことや、体幹が強くなったことを感じている。ぞうりを履き始めた頃は、慣れていないためなかなか公園までたどり着けなかったり、鼻緒による靴擦れがあったりと課題も多かったが、担任間で話し合い、近場の公園に出かけ時間に余裕を持てるようにしたり、鼻緒の位置をケアできる靴下を用意したりし、こどもたちが無理なくぞうりに慣れていけるようにした。保護者には保護者会やおたよりを通じてぞうり保育について伝え、ご理解をいただきぞうり保育を始めることができた。